

# あすなろ

静岡県伊豆市小下田 2492 駿豆学園 令和3年3月31日 229号  
TEL0558-99-0248・FAX99-0258



## コロナ禍の令和二年度

園長 天良 昭彦

コロナ禍の令和二年度を振り返ると、新型コロナウイルス感染防止対策に迫られる一年でした。ありとあらゆる事柄で今までの常識が通用せず、利用者がウイルス感染しないために最大限の努力をして参りました。地域の皆様やご家族に來園していただく行事は軒並み中止するしかなく、交流により長年積み重ねてきた関係性が中断していることを大変危惧しており残念に思っています。

外部行事も大半が中止となり、唯一、静岡県知的障害者福祉協会主催の「愛護ギャラリー展」がwebで開催され、県内各地から応募のあった絵画や陶芸・工芸等の作品を鑑賞することができました。

職員の出張による外部研修や外部会議もリモート開催がほとんどで、施設に居ながら参加が可能でしたが、今後はこの様な方法が主流になっていくのでしょうか。確かに合理的ではありませんが、集合型の研修や会議の合間に休憩時間等を利用して他の施設の職員と交流を持つことは、実はとても貴重な時間であり職員間の

ネットワーク作りのチャンスでもあります。その様な時間が戻ってくることを祈りたいと思います。

県内では、新型コロナウイルスのクラスターが発生した高齢者施設や障害者施設に対する誹謗・中傷や心無いバッシングが寄せられるという事例があり、大変悲しく残念でなりません。どんなに感染防止対策を徹底しても感染のリスクがなくなる訳ではなく、私生活に至るまで多くのことを自粛し、日々緊張感の中業務にあたっている関係者の心を折るような行為は厳に慎んでいただきたいと願うばかりです。

振り返ると、コロナ禍での数々の苦勞が頭をよぎりますが、感染防止に向けて職員が一丸となり協力することでお互いを尊重し合い、今まで以上に心が一つになってきた様に感じます。人との距離を保たなければならぬ今ですが、利用者、職員とも心はしっかりと寄り添っていきたいと思います。

一年以上コロナ禍にあり、利用者やご家族のご理解と、地域の皆様のご協力の下過ごして参りました。いまだ収束は見えませんが希望を持ち、継続して対応すべく職員一心して新年度を迎えたいと思います。

## 令和二年度を振り返って

支援課長 青木 あけみ

昨年の春、まず面会日が中止になりました。その後の面会日、帰省も全て中止に。行事も全て縮小・代替案となりソーシャルディスタンス、換気、実施時間に注意しながら参加者も少人数で複数回に分けて実施しました。いつもの行事と異なる為、「運動会」や「クリスマス会」には「ミニ」を添えて、「納涼祭」は開催を夏から秋へ名称も豊秋祭と変更して計画実施しました。毎月マイクロバスに乗りおやつや外食を楽しんでいた外出も新型コロナウイルス感染状況により、かなわない事が増えました。行事や外出での変化に加え外食にも変化があり、地元の店舗を中心にテイクアウトで食事を楽しむことが増えました。利用者からは「美味しかったので、また食べたい」「次はこれを食べたい」など意見が出ており、喜んで頂けて良かったと思います。

新型コロナウイルス感染予防には、マスクと手洗いが有効・大切という事で、利用者にもマスクの着用をお願いしています。初めは無理だろう

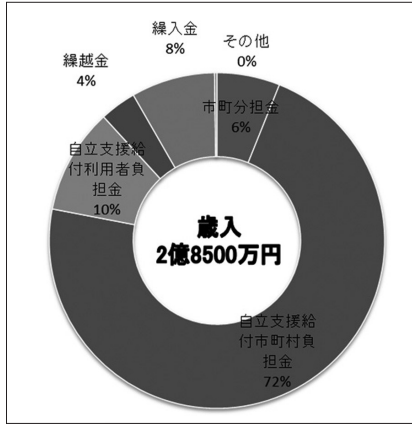
と思われた方も日々の継続と声掛けで日中の着用ができるようになってきました。換気もこまめに行っているのを、声をかけると開閉の協力をしてくれます。五月からは、食事方法も変更しました。以前は全員で各テーブルを囲み食事をする形から一人一テーブルで向き合わず外の景色を見ながら食べていただく形にし、二グループに分けて実施しています。変更した直後は席を覚える事や変わった流れの対応で皆が戸惑いましたが今はとてもスムーズに行われています。継続とは凄いなのだと改めて感じています。

面会と帰省が中止になった為、ご家族に元気な姿を見て頂きたいと二か月毎に利用者の写真を送らせてもらいました。沢山の笑顔を届けたいとカメラを向けるのですが、なかなか上手くはいかず、今後も頑張りたいと思います。

今までの日常と異なることが多い日々ですが、利用者は別段変わりなく毎日元気に過ごしています。表情の奥に抱えているであろうストレスや我慢を考慮しながら次年度も日中活動（クラブや外出等）を楽しんで頂けるよう計画して行きたいと思えます。

### 令和三年度当初予算について

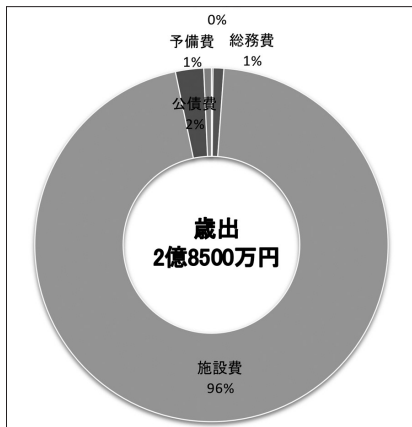
総務課長 山口 深志



令和三年度当初予算が、去る令和三年二月三日の組合議会において可決成立しましたので、ご報告いたします。一般会計予算は、歳入、歳出それぞれ二億八千五百万円を計上し、前年度当初予算と比較すると九百万円、約三・一%の減額となりました。

令和三年度の大きな変更点は、学園建設時に国庫から借りた起債の一つが令和二年度で完済されることから、歳入の市町分担金と歳出の公債費が、それぞれ約九百万円の減額となりました。予算全体の減額の理由ともなっています。その他の予算について主なものを説明いたします。

歳入ですが、学園の収入の約七割



を占める、自立支援給付市町村負担金ですが、令和三年度は報酬改定の年となっています。学園が実施している事業に大きな改定は見込まれないことから、前年度と同額の二億五百万円計上しました。令和三年度も歳入不足が見込まれるため、基金繰入金を二千三百万円計上しました。

次に歳入ですが、総務費について、令和二年度に実施した短期・長期修繕計画作成業務委託等の事業が完了したため、三百五十四万円減の二百七十六万円の計上となりました。施設費について、欠員となっていた職員一名を採用できたことや感染症予防のため医薬材料の購入などの理由から、約三百五十万円増額の二億七千二百四十四万五千円計上しました。

コロナ禍の中、利用者の安全、安心を最優先で予算執行していきます。

### 「コロナをきっかけに思うこと」

看護師 山田 美津子

私の家族は六人、主人と九十歳を超える義母の三人暮らしで子供たちは県外で生活しています。コロナ禍でもし感染、発症したらどうなる？ 会に行けない、来ても貰えない。もしも重症化したら…と思うと不安が募ります。コロナに限らず、医療現場では当たり前のように御家族と話しをしていた「終末期について」をいざ自分が考えるとなかなか答えは出ません。でもコロナをきっかけに結論はでなくても家族で話をしようと思うようになりました。終末期って何？どんな状態のこと？延命処置って何？理解してもらうにはとても難しいです。でもまずは、自分がどうしたいのかを考え伝えました。死にたくないから絶対に助けて欲しいでも、治療の限界と言われてしまったら、辛くないように最後を終わらせて欲しいと思う。助けて欲しいけど限界を超えたらどんなに高度な治療をしても無理だとわかってるから。家族の反応は、「うーん」「よくわからない」素直な答えでした。

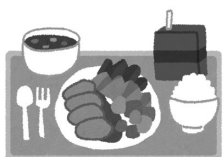
### 給食

栄養士 鍵山 智美

新しい給食システムに変更となつてから、一年が過ぎました。思い返せば試行錯誤の末、ようやく厨房内が軌道に乗り始めた矢先、新型コロナウイルス感染症の流行により様々なことが大きく変わりました。行事のほとんどが中止になりました。普段の食事風景も、大きく変わりました。

そんな中でもできることを模索し、デザートバイキングは従来の方法から、予め利用者の皆さんに何種類かのデザートを選んでもらい、それを厨房で盛り付け提供する形で実施しました。

今までのやり方にとらわれることなく、コロナ禍でも安全にできる方法を探し、柔軟に対応していく、簡単なようでも難しいこの「課題」に取り組みつつ、早く元の生活に戻ることでできるようにと願う毎日です。



考える良い機会になればと思います。

### 「大地」二つ二つに心を込めて

生活支援員 出川 奈央

「大地」は、木工作品の制作やアルミ缶作業、花壇整備、マグネットや箸入れ等の小物作り、園内清掃、日頃の感謝を込めて地域の清掃や除草作業に取り組みました。活動前には運動不足にならないよう体力維持の一環として四季の移り変わりを感しながら学園周辺で歩行活動や五分間走を行いました。

コロナウイルス感染症対策としてソーシャルディスタンスを意識した環境を整え、こまめな換気と消毒、少人数での活動を心掛けました。

山海フェアや文化祭、ふれあい広場での出店が中止となり販売する事が難しくなりましたが、企業の方が木工作品を発注して下さり販売でき、とても励みになりました。作品を手にとって喜んでくださる方々の笑顔を思い浮かべ利用者皆さん、一つ一つ丁寧に心を込めて一生懸命に作り上げました。

今後も利用者皆さんの特性を生かし、飽きない新しい活動を取り入れ毎日の作業が充実した時間となるよう共に頑張っていきたいと思っています。



土肥桜の下で



来年度のふれあい広場に向けて



新商品の箸入れを和紙で作ってます

### あそびたい

生活支援員 福田 敏行

あおぞら活動は、歩行活動を中心に利用者さんの心身のリフレッシュと、体力向上が行えるように取り組みました。

晴れた日は野外の歩行を行い、木々の色づきや、風を感じることで、心身のリフレッシュをすることが出来ました。また、学園のある小下田地区は坂や長い直線の道路があるので、利用者さんの体力維持や向上を図ることが出来ました。

雨の日には廊下や訓練棟での歩行活動を行いました。感染予防としていくつかのグループに分けて、交代しながら活動を行いました。自分の足で歩ける利用者さんはなるべく、自分の力で歩いてもらえるようにしてもらい、歩行が不安定な利用者さんには職員が介助をしたり、室内では手すりを使用したりすることでそれぞれの体力に合った歩行活動を提供させていただきました。

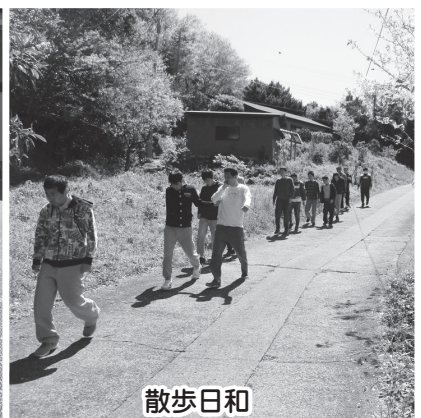
来年度は歩行活動を中心としつつ、レクリエーション活動も取り入れて利用者さん皆さんが楽しく健康維持が出来る活動を提供していきたいと思っています。



桜の下でセレクトジュース



青空の下でミニゲーム



散歩日和

# やよいの会

\*おいしいごはんを  
みんなで食べました。





私は1年間、調理員として勤務させて頂きました。至らないことが多く、たくさん御迷惑をおかけしましたが入職から今までご指導頂きありがとうございます。

仕事に対する姿勢、考え方など、この施設で学んだことを今後に活かして頑張っていきたいと思えます。短い間でしたがお世話になりました。ありがとうございます。



調理員  
鈴木 規戸

お世話になりました



ふれあい広場

- ― 善意を寄せられた方々 ―
- セブンイレブン伊豆市土肥店様
  - 土肥神社(中浜区)様
  - 八木沢郵便局様
  - 日赤奉仕団土肥分団様
  - 龍泉寺様
  - 佐藤医院様
  - 星忠(株)様
- 皆様のご厚意に御礼申し上げます

**【お知らせ】**

面会をご希望の方は、事前に電話にてご確認ください。パソコン等を利用したりモートでの面会も実施しております。

駿豆学園ホームページでもあすなろを閲覧出来るようになっていきます。

アドレスは  
[www.sunzugakuen.jp/](http://www.sunzugakuen.jp/) になります。

ぜひ御覧ください。

**編集後記**

新型コロナウイルス感染症の流行からあつという間に一年が経ちました。今年度のあすなろは予定していた行事等の変更や中止により、通常のアスナロとは少し変わった編集で対応させていただきました。

来年度も利用者の皆様の元気な姿をたくさんお届けできるよう工夫して頑張りたいです。